

おうち英語
子どもの娯楽を英語に変える♪



わが家のおうち英語では、

日本語:英語の割合を「6:4」でやってきたと
何度か note の記事内でも紹介していますが、
「6:4」と聞くと、「【4】とはそんなに多くないな」という
イメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれません。

我が家では、親による英語の語りかけをほとんど行わなかったので、
この日本語【6】には日常生活のルーティーンすべてが入っているわけです。

食事の時間、お風呂の時間など通常の生活で交わす会話、
そして日本語の絵本タイムなどの時間を【6】に使うと、
子ども自身の娯楽の時間のほとんどを英語に充てないと、
親が英語で語りかけない場合、
【4】という数字を確保することはなかなか難しいものでした。

そのため、我が家では子どもがブロックなどで遊んでいる時間も
背後で小さな音で英語の音源を流し続けたり、
アニメ視聴は英語のみということを徹底していました。

読み聞かせも、日本語の絵本を6冊読んだら
洋書絵本を4冊という割合をキープしてきました。

アウトプットを目的に始めたオンライン英会話レッスンも
「レッスン」という言葉に囚われず、
自由に遊ぶ時間となるようにオンラインで遊べる内容を色々と考えたりしてきたものです。

私は昔から三日坊主で、
とにかく飽きっぽくて継続するということができない
典型的なダメ人間です。

そんな私なのに!!!

この私がですよ!!!

なんと17年もおうち英語を続けてこれたのは、

【子どもは遊びながら学ぶ】という

子どもが本来持つ習性を活用できたからだと思います。

子どもは放っておいても遊び始めます。

おもちゃがなくても適当な物を

おもちゃに見立てて遊び始めたりするので偉いものです。

子どもが遊ばない日はないのです。

遊びという子どもにとっての娯楽の中に英語を入れてしまえば、
勝手に英語は子どもの生活の中に入っていくのですよね。

お気に入りのアニメができれば、

親が強制しなくとも、同じ話を何度も見たがったり、

続きを見たがったりしてくれるのです。

親の私の役割は、

子どもの好み趣向に合わせて、素材をチョイスしていくということでした。

チョイスを誤り、せっかく買ったのに見向きもされなかった素材が

大量に出るという経済的な痛手は何度か被りましたが、

「遊び=英語」という図式が崩れることはなかったため、

我が家のおうち英語は安定して続けることができました。

そして、インプットとアウトプットはどちらも【子どもたちの遊び】にリンクしていたため、

インプットとアウトプットの落差というものも割と少なく対応できたように感じています。

とにかくわが家の娘はポケモンが大好きだったため、

英語版ポケモンでインプットしたことを、

アウトプットの場であるオンラインレッスンでフィギュアを使ったごっこ遊びで再現していました。

または、読んだ洋書絵本をオンラインの先生に読み聞かせて、

自分の言葉で読んだことがある絵本の内容を語る、ということも好んでしていましたね。

年齢が上がるとレッスン内容も変わっていきましたが、

幼稚園ぐらいの頃は来る日も来る日も同じようなことをしていました。

成長していくと、当たり前ですが
だんだん幼児のような遊びはしなくなります。

成長に合わせてインプットの素材も変わっていきますし、
アウトプットの場のオンラインレッスンの内容も変わっていききました。

それでも、我が家のおうち英語が子どもの趣味趣向に合わせた
娯楽を英語にするというスタンスは変わりませんでした。

アニメ視聴が洋画鑑賞に変わったり、
ごっこ遊びがメインだったオンラインレッスンが、
自分の好きな物・興味のある物を・話題をシェアする形に変わって行ったりしていききました。

今、高校生になった娘は、大学受験勉強の合間に、
自分が好きな海外のアーティストのインタビュー動画を見ていたり、
中学生になった息子はゲームを英語で遊ぶという形で、
それぞれの娯楽を英語で楽しんでいます。

娯楽であるからこそ、
本人たちも親である私も無理なく続けていくことができたのかなと思います。

もちろん娯楽の域をインプットもアウトプットも超えていないことは否めないため、
「教養レベル的にはどうなのだ？」という問題点もあるかもしれません。

我が家はそのあたりは、
多読の本を私が意図的に選んだり、
オンラインレッスンで時事ネタに触れてもらうことで若干補ったりする以外は
学校英語に丸投げしています。

学校では嫌でもそこそこの教養ある英文が教科書や模試などのテストに出てきますので。。

「英語＝勉強・学習」というスタイルを取り入れてこなかったため、
大学受験に及んでも英語を勉強するという意識が持てないのは痛いところではありますが、
それでも手堅く得点するために語法を強化する必要性がある以外、
リーディングなどの受験生にとって本丸となる部分を
ノー勉でこなせるのはありがたい副産物だったかなと思っています。

そもそもわが家の子どもたちの母語は日本語ですので、
教養的・思想的なところは日本語をベースに学んでいけばいいと私は思っています。

何から何まで「英語を英語で学ばなければならない」とは思っていないのです。
日本語で得た知識をバックグラウンドの知識とすれば、
その分野の英文を読んだ時、未知の単語があったとしても
意味を類推して読み進めていくことができます。

2言語を一つ一つ独立させてしまうのではなく、
融合させてこそバイリンガルというものであり、
日本語が優位であるなら日本語を最大限に生かしつつ、
英語を活用すればいいと思うのです。

それが【偏重バイリンガル】と呼ばれるものなのかなと。

そして、英語を娯楽として続けてきた子どもたちにとって、
英語は高校・大学入試や英検など資格試験を突破するだけのものにはなっていないと思いますので、
大学入学以降も英語と付き合っていくのではないかと期待もしています。

【おうち英語】と【学校英語】の違い。

色々あるとは思いますが、始める時期だけの違いではなく、
内容にも違いがあるわけです。

【おうち】を【学校】にしてしまって、
【英語を勉強する】というスタイルにすると
いろんな意味で無理が生じてきます。

【おうち英語】はそれぞれの家の生活の中に
無理のない範囲で英語を組み入れていくのが本来の趣旨かなと。

この無理のない範囲という意味は
個人によって解釈が広義的になりますが、
実は大切なところだと思っています。

時間的、内容的に無理をすれば
親子ともに続けることが苦しくなり、
言語獲得能力的に無理の範囲を超えれば

子どもをセミリンガルにしてしまう危険性も孕んでいます。

極端な無理はしてはならないと思うのです。

親子ともに英語が無理にならないことを目的に

我が家は「遊び」をベースにしていきました。

子どもは喜んで遊びますし、

子どもは遊びから学ぶと言っても過言ではないからです。

そういう取り組みを続けた結果、

娯楽を英語で楽しむというスタイルは子どもの中に定着し、

今も無理のない範囲で続けることができています。

確かにわが家の子どもたちの趣味趣向は

人様に感心されるような崇高なものでもアカデミックな内容でもないため、

子どもたちの中に育っている英語はそれ相応のものかもしれませんが、

我が家のおうち英語はそもそも学問として取り組んでいるわけでも、「子どもを将来外務省で働かせよう」というような

希望があってのことではありませんのでその点はヨシとしています。

今私が運営しているオンラインスクールでも、

その「遊びをベースに」という理念が生きていて、

子どもたちは好きな遊びを講師の先生と一緒に遊んでいます。

折り紙、塗り絵をしたい子、おにごっこがしたい子、

お話を作りたい子、ゲームをしたい子、

みんなそれぞれですが、

好きなことをしながら英語に親しむ姿はどの子もイキイキとしています。

ゲームレッスンも進化し、

今はマイクラフトをマルチプレイするというグループレッスンまで出来てしまいましたが、

マイクラのレッスンでの子どもたちの話そうという意欲は並々ならぬものがあると感じています。

「自分が作った作品を見て欲しい」、

「大きなものを作りたいから協力してほしい」、

「一緒に戦って遊ぼうよ」などなど、

自分の娯楽世界を充実させるためにどの子もとてもし生懸命になっています。

そういう姿を見ていると、
娯楽を英語で楽しむというスタイルはアリだな!と思ったりしますが、
立派なカリキュラムもなく、テキストもウリにせずのヘンなオンライン英語スクールですので、
時々「遊ばせてばかりで大丈夫ですか?」との質問をいただくことも多いです(^_^;

今日の記事がそちらへの回答になっているかは微妙ですが、
我が家での遊びを通したおうち英語がどんな現状になっているのかを
一つの例としてお話しさせていただきました。

遊びとは娯楽であり、娯楽は人に必須です。
その娯楽を英語で楽しめるようにルールを敷いてあげれば、
子どもは自らの意思で英語を続けていってくれるように思っています。

何事も「好きな物こそ上手なれ」が秘訣なのかもしれません。

2020年11月7日 noteより引用

追記

あれから4年・・・

Englishbuds は<子どもの娯楽を英語に変える>を実践し続け、
とうとう「マイクラのスクール」「ゲームのスクール」と呼ばれるようになっております www

しかし、そう呼んでいただけるのは
バズが大切にしている理念からすれば
喜ぶべきことであると思っております。

レッスンを勉強や習い事と思わず、本当に遊ぶ時間だと思い、
先生のことを英語の先生だと思わずに「ゲームが上手い友達」と思ってくれるなんて
最高ではありませんか!

そしてさらに最高なのは
ただ遊んでいるだけではなくて
着実に英語力も向上させていってくれているところです。

よく遊び、よく学べ!

これからも Englishbuds はこの姿勢を堅持したいと思っております。
どうぞよろしく願いいたします♪

